

## 雑 感



HOYA 株式会社

相談役 山 中 衛

NGF での研究は、参加研究者、ご指導頂いている先生方のご努力で順調に推移している様子でうれしい限りです。

ガラス産業の一つの方向としてナノガラスの研究は非常に意味のあるものと確信していますし、今の研究成果を伺う限り将来きっと何かを生み出す可能性も充分期待し得ると思います。是非参加各企業のバックアップと政府のご支援をお願いし、良い結果を得たいものです。

さて、名目 GDP と実質 GDP との乖離とかデフレーションの問題は、単年度ではさほどの格差はない様に思われがちですが、この状態が既に相当長く続いていますので、格差を累計しますと、かなりのものになり定着していて、近い将来、名・実が逆転する事が難しい様にも思われてしまいます。失われた 10 年状態がもう少し続く覚悟をしていなくてはなりませんでしょう。

一つ一つの企業としては、デフレ傾向に対処する方策を確立しておかないと、蟻地獄に陥り、抜け出すのに難儀な事になってしまいます。デフレ対策がビルドインされた社内体制を構築する必要が求められます。具体策は企業の置かれた場面により異なると思いますが…。

一方、我が国の構造改革や制度改革の方向について、当然の事ながら世界の水準と比較して、よりインフラが競争力強化の方向で改革されるべきで、海外から我が国を見て資本投下するに当たり、他より魅力的でなければなりません。生活し易さから科学技術の高さ、良質の労働力や相対的なコスト水準、経営の自由度まで、社会の諸制度や経済的規制、税制等々、人材や資本が日本に集まって互いに競争をする土壌を育てることでしょうか。

東欧諸国やニーズ・アセアン諸国、最近では中国が自由主義経済体制に組み込まれ、各国より大量の直接投資が最初は主にコストの低減効果を求めてなされています。

これは資本にとって競争力の観点から魅力が大きいからで、工場の海外移転、海外企業

の買収等により経営ノウハウ、生産技術が立地として、より魅力のある国へと移動していくことで、国家間や地域間競争の結果、日本は企業や資本、人材等を引きつける魅力を失ってしまっているのです。一つの狭い土地に一億人を超える人数が住み、比較的豊かな所得すなわち良いマーケットをなしているから、商業資本や金融資本にとっては相当に魅力のある部分でしょう。

一昔前に良く言われたグローバリゼーションを思い出し、少なくとも主要先進国並みの諸制度の自由化、規制の緩和、国際化を進めていかないと、構造改革、制度改革も掛け声だけに終わり、魅力度アップ競争で何周も離されて、今となってはどの程度の遅れかも良く分からないといった状態で不感症になって、世界の経済の中で一人取り残されてしまい、何時迄経ってもデフレ脱却も出来ない状態が続きかねないと心配しています。

江戸時代は鎖国がなされて一時的に国内は平和に安住できたのですが、実は世界から相当に遅れてしまったのですが、まさか現代では再び孤立化の道を選ぶわけにはいかないでしょう。安易に流れて外との競争力を付けませんと国全体で「茹でガエル」状態になってしまうかも。

一月中旬 記